京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称
〈ポスト=ヒューマン〉の人文学

2. 主宰責任者氏名
ジル・フィリップ（Gilles Philippe、ローザンヌ大学）
森本淳生

3. 開催日時等およびプログラム（講演者名または報告者名を明記してください）
①日時：2020 年 11 月 14 日（土）
場所：ウェビナー（講演者、通訳者は京都、東京、パリより参加）
森本淳生　Atsuo MORIMOTO　（京都大学）
イントロダクション――〈ノン=ヒューマン〉から〈ポスト=ヒューマン〉へ
Introduction：Du « Non-humain » au « Post-humain »
ジル・フィリップ　Gilles Philippe　（ローザンヌ大学）
ポスト=ヒューマニズムと文体論
Posthumanisme et stylistique
塚本昌則　Masanori TSUKAMOTO　（東京大学）
非人間の詩学――オルテガ・イ・ガセット「芸術の非人間化」からメルロ＝ポンティ「制度化」まで
Poétique de l'inhumain：De « La Déshumanisation de l'art » d'Ortega y Gasset à « L'Institution » de Merleau-Ponty
篠原雅武　Masatake SHINOHARA　（京都大学）
世界の脆さの只中での post-humanities：川内倫子の写真実践とティモシー・モートンのエコロジー思考をめぐって
Le post humanisme au cœur de la fragilité du monde：la pratique photographique de Kawauchi Rinko et les idées de Timothy Morton sur l'écologie

4. 概要（400 字程度）
深化するグローバリズム、遺伝子工学や AI など飛躍的発展を遂げたテクノロジー、深刻な環境破壊と気候変動、コロナウイルスが示したパンデミックの危機等々が示す現代のポスト=ヒューマン的状況、すなわち、近代的な「人間」の「終焉以後」の時代において人文学はいかなるものでありうるのかを考察した。森本はマラルメやウエルベックなど 19 世紀以来のフランス文学に見られる、人間の非=人間的な次元に対する関心を浮き彫りとし、フィリップは文体論的な観点よりコンピュータによって生成された文学作品やフローベールが夢想した「語り手のいない作品」を論じ、塚本はオルテガ・イ・ガセット、ヴァレリー、メルロ=ポンティを取りあげて人間と世界との相互連関的な生成の次元を明らかにし、篠原は気候変動や震災以後の人為的世界の脆さと、それを踏まえてこそ感じられる新たなリアルの感覚を川内倫子の写真を例に論じた。

5. 参加者（別紙「参加状況」も記載してください。）
①学外
ジル・フィリップ（Gilles Philippe、ローザンヌ大学文学部）、塚本昌則（東京大学大学院人文社会系研究科）
学内

篠原雅武（京都大学大学院総合生存学館（思修館））

6.助成金の使途等
・篠原雅武先生日本語原稿のフランス語訳作成（ブリス・フォコニエ氏）：62829 円
・謝金（篠原先生）：16705 円
・謝金（塚本先生）：16705 円
合計：96239 円

7.その他（成果や今後の展開等、自由に記載してください）
近年なにかと話題となる「人文学の危機」を、ポスト=ヒューマン的状況を踏まえて改めて考察し、21 世紀において今後いかなる方向と方法によって人文学を展開していくべきかのヒントを得ることができた。森本とフィリップが強調したように、ノン=ヒューマンなものをめぐる考察はすでに 19 世紀には文学の主要な関心対象だったのであり、それが、塚本がとりあげた 20 世紀の非人間的なものをめぐる考察を経て、篠原が分析した震災以後の思考のあり方にまでつながっている。こうした人文学にそもそも含まれていたノン=ヒューマンなものに関する考察を、現代のポスト=ヒューマン的状況において読み直し、新たな問題系に組み直すことが今日求められている。
また、フランスなど海外の視聴者を含む 100 名以上の参加者を得られたこと、ウェビナー上で日仏同時通訳を行えることを実地に検証できたことも収穫であり、今後の国際シンポジウムのあり方の考える上で有益な企画であった。

別 紙

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	3	19 (7)	0 (0)	2 (1)	11 (3)	5 (2)	19 (7)	0 (0)	2 (1)	11 (3)	5 (2)
国立大学	18	28 (11)	7 (5)	7 (2)	11 (8)	11 (8)	28 (11)	7 (5)	7 (2)	11 (8)	11 (8)
公立大学	0	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
私立大学	10	12 (4)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	12 (4)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (0)
大学共同利用機関法人	0	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
独立行政法人等公的研究機関	0	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
民間機関	3	3 (1)	0 ( )	0 ( )	2 (1)	0 ( )	3 (1)	0 ( )	0 ( )	2 (1)	0 ( )
外国機関	0	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
その他	1	52 (15)	0 (0)	2 (0)	8 (1)	11 (3)	52 (15)	0 (0)	2 (0)	8 (1)	11 (3)
学外 計	32	95	7	12	23	24	95	7	12	23	24
計	35	114 (38)	7 (5)	14 (3)	34 (13)	29 (13)	114 (38)	7 (5)	14 (3)	34 (13)	29 (13)

【その他の参加状況】年代、職業、所属機関、性別等無回答の参加者を含む

※本務所属が海外の研究機関である研究者
※( )内には、女性数を記載
※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。
※外国人、若手研究者(40 歳未満)、若手研究者(35 歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。
※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。
※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。
※【その他の参加状況】には「その他」区分に計上した、具体的な所属等を記載
※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください
　国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人